

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもの広場四日市 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	2025年11月28日 ~ 2025年12月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年1月26日 ~ 2026年2月12日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月26日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性を活かした独自の療育プログラム	「ことだま講座」では外部専門スタッフ、「どんぐり広場」では小児科医のアドバイスを取り入れるなど、多角的な視点からお子さまを支えています。専門家と連携した精度の高いフィードバックを行うことで、保護者様がより安心感を持って子育てに向き合えるよう努めています。また、小集団療育の場合は保護者様同士が悩みや喜びを共有し合える貴重な交流の機会にもなっており、地域で孤立しない子育て環境づくりを推進しています。	外部スタッフや医師からの貴重な助言をスタッフ全員で共有し、誰が対応しても専門的な視点に基づいた確かな支援やご報告ができるよう、事業所全体のレベルアップを図ります。
2	個々の変化を見守る「伴走型」の支援	利用者一人ひとりの特性や発達段階に寄り添い、日々の小さな成長や変化を大切に受け止める支援を心がけています。画一的なマニュアル対応ではなく、その時々のお子さまの状態に合わせた「個」を置き去りにしない関わりを継続しています。	職員間の連携を密にし、誰が対応してもお子さまの状態に合わせた一貫性のある支援が行える体制を整えます。また、有資格者を中心とした採用と、特性に合わせた柔軟なスタッフ配置を行い、一人ひとりに寄り添う「置き去りにしない支援」の質を高めます。
3	専門機関との連携体制	「なごや発達クリニック」主催のセミナーをはじめ、専門的な知見に基づくバックアップ体制があり、ご家族へ質の高い情報提供や支援を行える基盤があります。	なごや発達クリニック主催セミナー等の情報がご家族へ届くよう、案内方法を見直し周知不足の解消に努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域社会との連携・交流機会の欠如	事業所内での療育活動には安定して取り組めていますが、放課後児童クラブや近隣施設といった地域資源との有機的なネットワーク構築については、まだ発展の途上にあります。	お子さまが住み慣れた地域の中でより多様な人々と触れ合い、社会性を広げていけるよう、インクルーシブな環境づくり(地域共生)への働きかけを段階的に強化していきます。
2	安全管理・運営情報の「周知不足」と不透明さ	内部での体制整備(マニュアルや訓練)は進んでいるものの、それがご家族に適切に可視化・共有できておりませんでした。情報発信の不足により、運営の適切性や安全性に対する「根拠のある安心感」を提供できていませんでした。	「できていること」を正確に分かりやすく発信する広報のあり方を見直します。安全管理や職員体制などの情報を可視化し、ご家族に根拠のある安心感を持っていただけるよう周知の徹底を図ります。
3	ペアレントトレーニングや父母会の未開催、きょうだい児向けイベントの欠如。	現在は個別面談や日々の対話を通じた、一对一のサポートが中心であり、保護者様も現時点では集団活動(父母会等)の必要性を強くは感じておられない状況があります。	この良好な関係を土台としつつ、ご家族のさらなる安心やリフレッシュに繋がるよう、きょうだい児支援や気軽な情報交換の場など、「プラスアルファの家族支援」のあり方を柔軟に検討していきます。